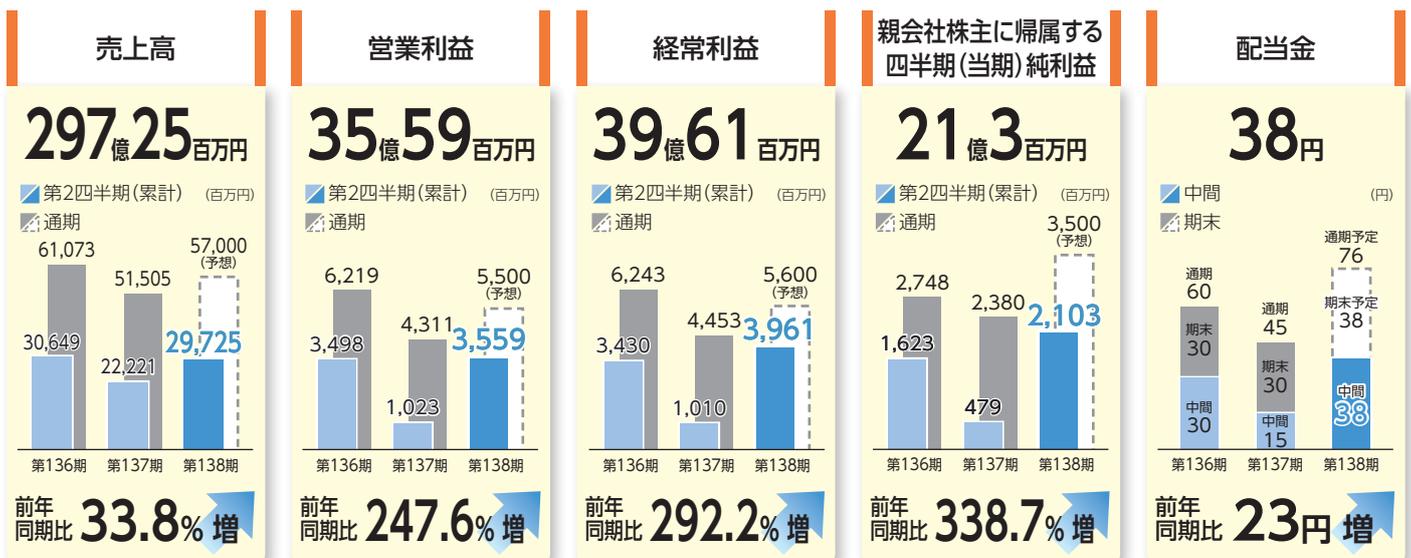


株式会社 **ニチリン**  
[証券コード: 5184]

### 連結業績ポイント

2021年12月期 第2四半期(累計)



### 2021年12月期の通期見通し





# グローバルサプライヤーとして今後さらなる発展を目指してまいります。

代表取締役 社長執行役員 **前田 龍一**

### Q 第138期（2021年12月期）第2四半期連結累計期間における事業の概況をご報告願います。

**A** 当期は新たな中期経営計画「NICHIRIN New Sustainable Development Plan(2021～2025年度)」のスタート年度として、持続可能な成長へ向けて様々な取り組みを開始しております。それでは上半期における事業の概況につきましてご報告いたします。

まず当社グループ全体の概況ですが、第1四半期は新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)からの経済復調に伴い堅調に推移いたしました。しかし、第2四半期からは半導体不足が一層顕著になったことに加え、インド・東南アジアにおける新型コロナの変異株による爆発的な感染拡大により、主要顧客である日系自動車メーカーは生産が低調となりました。また、当社グループの海外子会社においても、ベトナムでロックダウンが発生するなど、生産が停滞するといった事態もあり、経営環境は厳しい状況でありました。

セグメントごとの概況につきましては、次のとおりです。

日本は、国内販売、海外子会社向け販売とも、新型コロナの影響による需要減から順調に回復しており、一部顧客で半導体不足の影響があったものの、好調に推移し、売上・利益とも当初計画を上回る業績を上げることができました。

北米は、半導体不足による顧客の減産がありましたが、新型コロナの大きな影響を受けた前年に比べ、米国経済の回復基調に伴い業績も回復傾向となりました。

中国は、政府による新型コロナに対する強力な措置で経済回復

が進んだことを背景に、大規模な生産停止があった前年に比べ、業績が大幅に改善いたしました。

アジアは、第2四半期以降、新型コロナの変異株による感染が拡大しましたが、地域内における二輪車用ブレーキホースが堅調に推移したことに加え、北米・欧州向け販売が回復傾向で、業績も前年同四半期を上回りました。

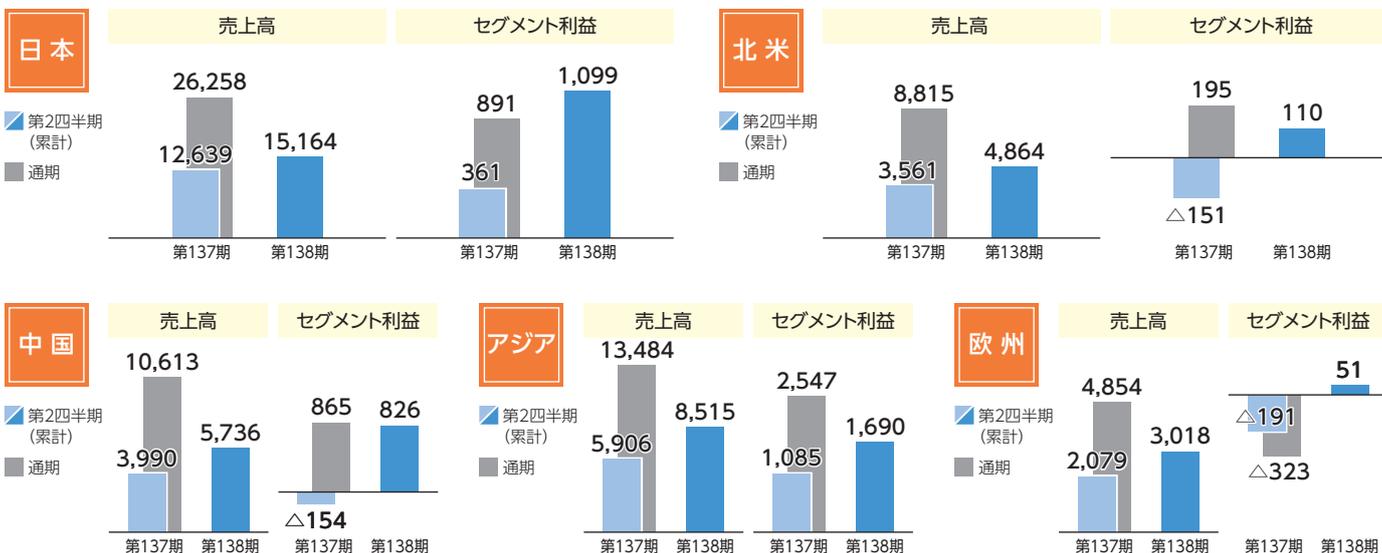
欧州は、半導体不足による顧客の減産や生産停止の影響がありましたが、欧州の自動車メーカーからの受注が増えたことにより、堅調に推移いたしました。前年同四半期にマイナスであった営業利益につきましては、スペイン子会社での生産性改善やアジア子会社からの最適調達によってプラスに転じました。

以上の結果、上半期の連結業績は、売上高29,725百万円(前年同四半期22,221百万円)、営業利益3,559百万円(前年同四半期1,023百万円)、経常利益3,961百万円(前年同四半期1,010百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益2,103百万円(前年同四半期479百万円)となり、コロナ禍の影響を受けた前年同四半期に比べ、売上高、利益ともに大幅に改善いたしました。なお、株主様への中間配当金に関しては、直近の業績が堅調であること等を勘案し、1株当たり38円とさせていただきます。

### Q 上半期における主な取り組みについて進捗ならびに成果をお聞かせください。

**A** 日本では、産業界において新型コロナの世界的な感染拡大によりサプライチェーンの国内回帰が起きており、

## セグメント情報 (単位：百万円)



※売上高は内部売上高を含む売上高を表示しております。

自動車業界においても一部の製品に同様の動きがありました。当社グループでも、北米や欧州から一部の製品で国内回帰を行っております。市場環境の変化に応じ、機動的に生産拠点を変えている当社グループの強みが発揮できたと考えております。

また、前期から本格的に進めている欧州の再編につきましては、新たな生産拠点とすることを前提に、ブルガリアでサブコントラクト（下請け）として生産を行い、製品をスペイン子会社に納品しております。品質的にも問題なく、順調に経過しております。次のステップとしては、現在ベトナムで生産している欧州向けの二輪車用ブレーキホースの組立を、世界最適生産の観点から、年内にブルガリアに移管する計画です。将来的には、東ヨーロッパから距離の近い欧州自動車メーカーのサプライヤーとして機能させることを計画しており、スペイン子会社と合わせて東西2つの生産拠点で欧州需要に応えられる体制にしていきたいと思います。

新製品につきましては、開発を進めていたエアコン用樹脂配管は、顧客への提案も最終フェーズに至っております。量産に向けての新工法も概ね目処が立っており、順調に進めば来期には採用されるのではと期待しております。この樹脂配管は、軽量化に寄与するだけでなく、アルミ金具を使った従来製品に比べ約65%のCO2削減が可能となります（当社調べ）。また、リサイクルも容易となり、環境規制が厳しい欧州はもとより、世界的なニーズにかなう環境にやさしい製品と言えるでしょう。

新工法による新型IHX（エアコン用内部熱交換器）は、従来IHXと比較すると熱交換率の向上に加え、内製化に取り組むことで、コストダウンが図れるようになりました。現在、中国で材料を調達して生産を行っております。この新工法は日本で開発し、中国に導入したもので、当社グループの生産面における戦略的モデルの一例でもあります。

注力する取り組みとしては、海外を含めた子会社の生産性の向上があります。そのカギとなるのが「協働ロボット」です。協働ロボットとは、人間とロボットが協働で作業をし、「事故を起こさない」「作業者がケガをしない」というコンセプトで設計されたもので、操作はスマートフォンレベルで容易に導入が可能です。まずは日本で協働ロボット導入のノウハウを確立し、それを海外子会社に広げていく計画です。国内での体制が整えば、海外子会社への導入はスピーディに進めることができ、「安心・安全な作業環境の提供」に加え、効率化やコストダウンが図れるようになります。また、当社グループは地域の活性化という目的をもって、中小企業向けに生産システムや製造機械を販売する事業も展開しておりますが、この協働ロボットもその商品となり、ロボットと関連システムに加え、コンサルティングも含めて販売していきたいと考えているところです。

また、当社グループでは、真のグローバル企業を目指し、企業価値の向上へ向け、海外人材の採用や育成はもとより、様々な取り組みを推進しております。

生産面では、「世界最適生産」の実現が目標です。一つは需要のある地域に生産拠点を設け、顧客ニーズへの即応と時間・コストの削減を図ります。現在、進めている欧州再編もその一環です。そして、もう一つが、感染拡大や自然災害、国の政策変更、EV車やE-バイクへの移行など、様々な変化に対し、グローバルな視点で対応できる体制の確立です。今回のコロナ禍でもロックダウンしたベトナムから日本へ生産を移しましたが、この強みをさらに強固なものとするために、日本で新たに開発した生産技術・生産システムを海外子会社へ拡大し、平準化を図ってまいります。

**Q** 最後に株主様へのメッセージをお願いいたします。

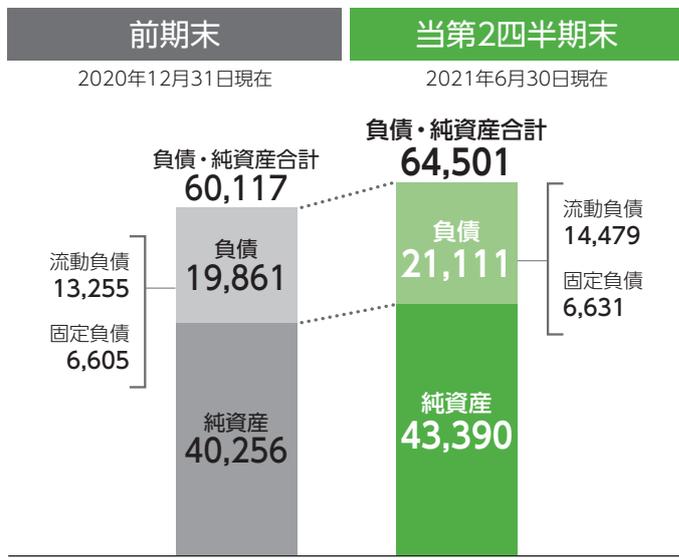
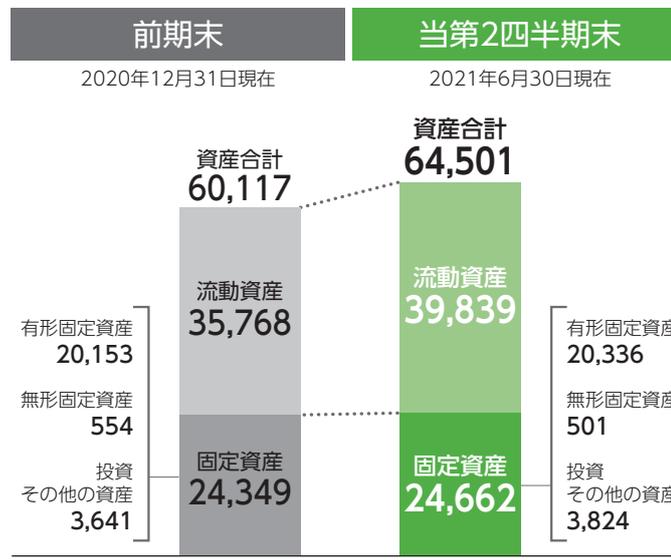
**A** 世界で認められるサプライヤーとしては、サステナビリティ、SDGs、ESG経営に資する企業でなければなりません。新製品・新工法の開発にあたっては、CO2の削減、省資源等環境に配慮した取り組みをさらに推進いたします。

当社グループは、グローバルサプライヤーとして今後さらなる発展を目指してまいります。株主様におかれましては、より一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

**Q** 下半期および今後の取り組みについてどのようにお考えですか。

**A** 現時点での懸案事項としては、半導体不足および新型コロナウイルスの感染動向、原材料費と物流コストの上昇があります。経営環境は依然として厳しい状況が続くと予想しておりますが、当初計画を上回れるように取り組んでいきたいと考えております。

**四半期連結貸借対照表の概要** (単位：百万円)



## 株式の状況

(2021年6月30日現在)

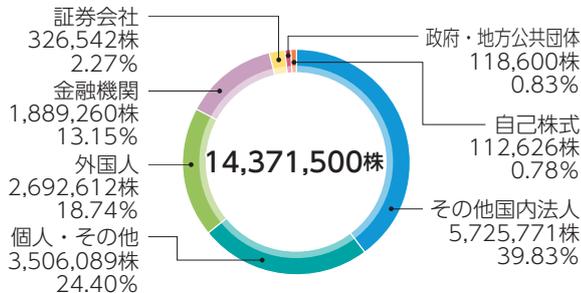
発行可能株式総数 45,760,000株  
発行済株式総数 14,371,500株  
(自己株式112,626株を含む)  
株主数 7,753名

### 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
太陽鋳工株式会社	3,217	22.6
双日株式会社	1,144	8.0
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	732	5.1
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	537	3.8
東京センチュリー株式会社	475	3.3
STATE STREET BANK AND TRUST CLIENT OMNIBUS ACCOUNT OM02 505002	423	3.0
株式会社みずほ銀行	373	2.6
日本精化株式会社	286	2.0
株式会社日本カストディ銀行(信託口9)	213	1.5
みずほ証券株式会社	195	1.4

(注)持株比率は、発行済株式総数(自己株式除く)に対する持株数の割合であります。

## 所有者別株式分布状況



## 株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで  
定時株主総会 毎年3月に開催  
基準日 毎年12月31日  
その他必要あるときはあらかじめ公告して定めます。

株主名簿管理人および特別口座管理機関  
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社  
〒540-8639 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
証券代行事務センター

(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)  
取次窓口 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

公告方法 電子公告(当社ホームページに掲載します。)  
<https://www.nichirin.co.jp/ir/denshikoukoku.html>  
ただし、電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

単元株式数 100株  
上場証券取引所 株式会社東京証券取引所 市場第2部  
証券コード 5184  
当社ホームページアドレス <https://www.nichirin.co.jp/>

・住所変更、単元未満株式(1株から99株まで)の買取等のお申出先について  
株主様の口座のある証券会社等にお申出ください。  
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

・未払配当金の支払いについて  
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。



## 会社の概況

(2021年6月30日現在)

創立 1914年(大正3年)5月  
設立 1924年(大正13年)3月  
資本金 21億5,800万円  
本社 〒650-0033  
兵庫県神戸市中央区江戸町98番地1  
東町・江戸町ビル3階  
電話(078)392-1471(代) FAX(078)392-1758

事業所 姫路工場  
兵庫県姫路市別所町佐土1118番地  
電話(079)252-4151(代) FAX(079)251-2160

東京支社  
東京都港区芝浦1丁目3番11号  
ニュー芝浦ビル4階  
電話(03)5476-8050(代) FAX(03)5476-0338

浜松営業所  
静岡県浜松市中区板屋町110番地の5  
浜松第一生命日通ビル11階  
電話(053)454-3721(代) FAX(053)452-5524

厚木配送センター  
神奈川県愛甲郡愛川町中津字桜台4055番地  
電話(046)285-2311(代) FAX(046)285-2129

主要な事業内容 自動車用ブレーキホース、パワーステアリングホース、カーエアコンホースなど自動車用各種ホースの製造・販売および住宅関連のホース類等の製造・販売を行っております。

従業員 371名(出向者34名除く)

## 取締役および監査役

(2021年6月30日現在)

代表取締役社長執行役員	前田 龍一
取締役専務執行役員	谷口 利員
取締役常務執行役員	菊元 秀樹
取締役常務執行役員	曾我 浩之
取締役常務執行役員	難波 宏成
社外取締役	矢野 進
社外取締役	鈴木 一史
社外取締役	木村 美樹
常勤監査役	手塚 俊雄
監査役	森川 良一
社外監査役	上田 清和
社外監査役	高畑 新一

## ホームページ紹介

<https://www.nichirin.co.jp/>

当社ホームページでは、IR情報、製品情報や最新トピックスなどの情報を掲載しております。

